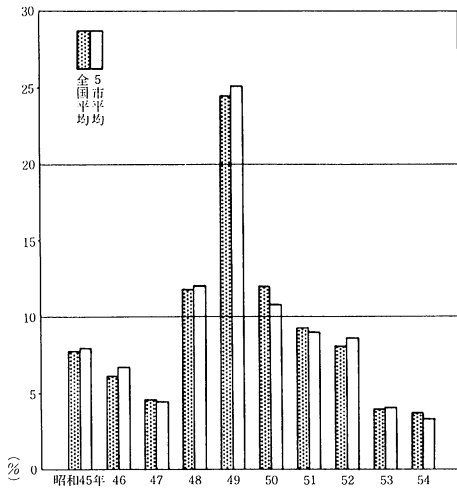


年平均は3.2%の低い上昇だが、11月から上昇傾向 ……

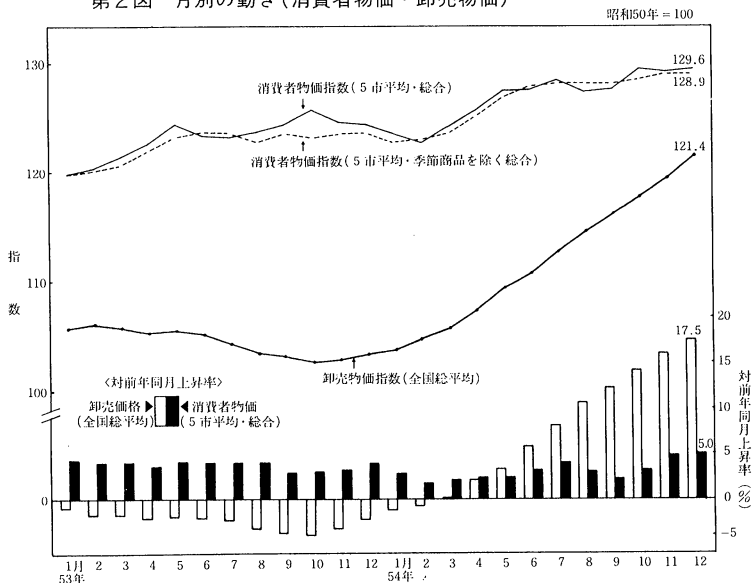
1. 概 況

昭和54年平均の茨城県消費者物価指数(5市平均)は、昭和50年を100とした総合指数で126.9となり53年平均に比べ3.2%の上昇で、この指数の計算を開始した43年以来最も低い上昇率となっている。最近数年間の対前年上昇率をみると、47年が4.3%、48年が12.0%、49年が25.2%、50年が

第1図 総合指数の対前年上昇率
(全国平均・5市平均)



第2図 月別の動き(消費者物価・卸売物価)



10.8%、51年が9.0%、52年が8.6%、53年が3.9%、となっており、53年に急速に鎮静化した物価は、54年には一層落ち着いたことを示している。

次に費目別の対前年上昇率をみると、被服が5.4%で最も高く、次いで、住居及び光熱が4.6%、雑費が4.2%、食料が1.1%となっている。被服が最も高い上昇を示したのは、婦人物の洋服や和服などの値上がりを中心に、衣料が5.3%上昇したことが主因である。また季節商品(生鮮魚介、野菜、果物)を除く総合指数は、126.6となり53年平均に比べ3.4%の上昇となっている。

対前年上昇率を全国平均と比較してみると、総合指数で52年(全国8.1%)、53年(全国3.8%)と全国平均を上回っていたが、54年(全国3.6%)は下回っている。費目別では、全国平均(食料2.2%、住居4.2%、光熱3.9%、被服4.8%、雑費4.7%)に対し、住居、光熱、被服が全国平均を上回ったが、食料、雑費は下回っている。

2. 年間の動き

各月の動きを対前年同月上昇率でみると、1月から10月までは、7月の4.1%を除き、おおむね2%~3%台と安定した動きを示したが、11月には4.8%、12月には5.0%と次第に上昇率を高めている。

このように10月までおおむね安定していた消費者物価が、11月から騰勢に転じた主な要因は野菜の値上がりと原油の値上がりの影響である。

5月まで前年の水準を下回っていた野菜は、7月に暴騰した後、8月及び9月には前年の水準を下回ったが、10月以降白菜・レタスなどを中心に前年の水準を上回り、11月には前年同月に比べ34.2%、12月には56.8%と大幅な上昇を示した。

原油の値上がりの影響で、6月から灯油及びガソリンが月を追って大幅に値上がりしたに加え、10月からはプロパンガスも値上がりした。例えば、12月の灯油は、前年同月に比べ83.6%と大幅な上昇を示した。

3. 月別の動き

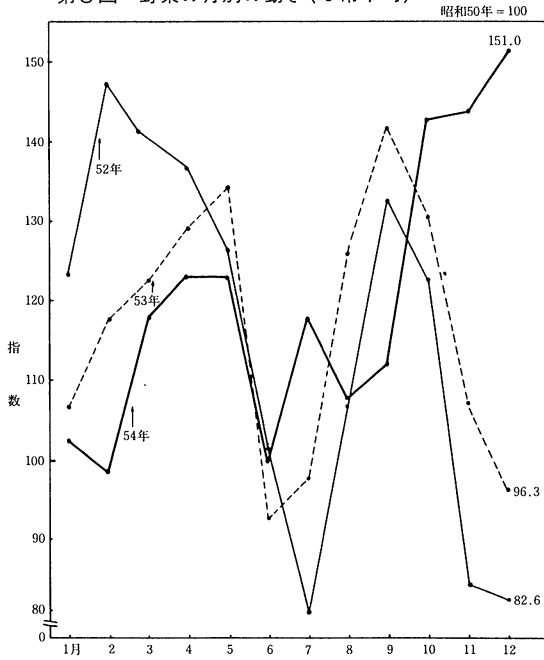
昭和54年の消費者物価の月々の動きをみると、

1月……野菜、生鮮魚介が値上がりした反面、冬物衣料が値下がりしたため、総合指数は前月に比べ0.2%の下落。

2月……野菜、生鮮魚介、乳卵などの値下がりに加え、冬物衣料が値下がりしたため、0.4%の下落。

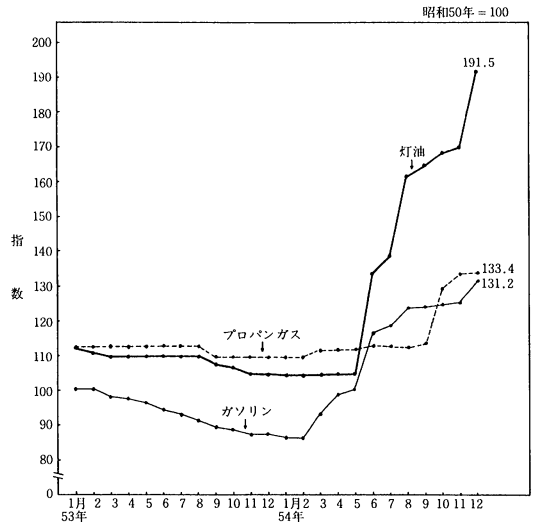
昭和54年茨城県消費者物価の動向

第3図 野菜の月別の動き（5市平均）



- 3月……野菜が大幅に値上がりしたほか、洋服などの値上がりにより1.1%の上昇。
- 4月……53年10月から54年3月まで実施された電気代及びガス代の料金割引がなくなったため、光熱が上昇したほか、教育などの値上がりにより1.1%の上昇。
- 5月……夏物衣料が高い価格水準で出回ったのに加え果物も値上がりしたため、1.4%の上昇。
- 6月……野菜は大幅に下落したが、国鉄運賃の改定のほか灯油や衣料などの値上がりにより0.1%の上昇。
- 7月……野菜の大幅な値上がりに加え、生鮮魚介、灯油などの値上がりにより0.6%の上昇。
- 8月……夏物衣料が値下がりしたほか、果物及び野菜などの値下がりにより0.6%の下落。
- 9月……生鮮魚介は値下がりしたが、果物、乳卵、野菜の値上がりにより0.2%の上昇。
- 10月……野菜及び果物の大幅な値上がりに加え、プロパンガスも値上がりしたため1.6%の上昇。

第4図 灯油、ガソリン、プロパンガスの月別の動き（5市平均）



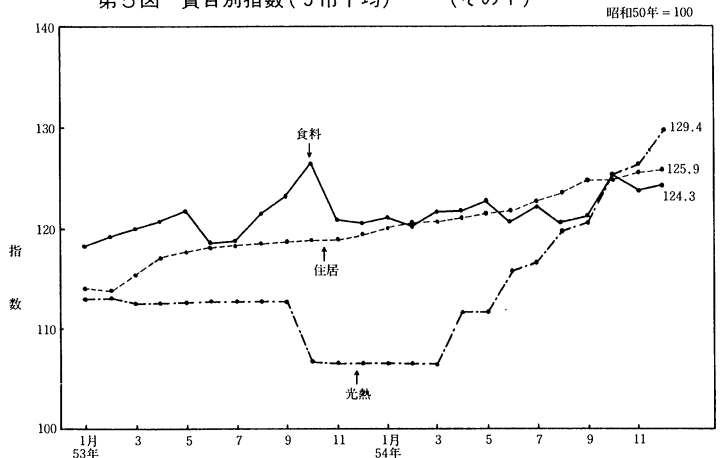
- 11月……果物の大幅な値下がりにより0.2%の下落。
- 12月……灯油が値上がりしたほか、野菜、乳卵なども値上がりしたため0.1%の上昇。

4. 費目別の動き

食料指数は、122.1となり、53年平均に比べ1.1%の上昇で、53年の対前年上昇率3.6%より低くなっている。

これは、53年は大幅に上昇した塩干魚介が54年では比較的小幅な上昇にとどまったほか、54年2月の消費者米価の改定が比較的、小幅に抑えられたため主食の上昇が低かつ

第5図 費目別指数（5市平均）（その1）



調査から

たこと、53年5月に酒税が改定されたのに対して、54年には、これがなかったため、酒類の上昇が低かったこと、加工食品、外食なども前年に比べ低い上昇にとどまったことによるものである。

内訳をみると、乾物が5.2%、塩干魚介が4.8%、野菜が2.9%、外食が2.6%、乳卵が2.1%、それぞれ上昇したほか、酒類、加工食品、主食、果物、菓子も小幅ながら上昇した。

一方、肉類(1.7%)、飲料(1.5%)、生鮮魚介(1.4%)、調味料(1.0%)は、それぞれ下落し、食料全体としては1.1%の上昇となっている。

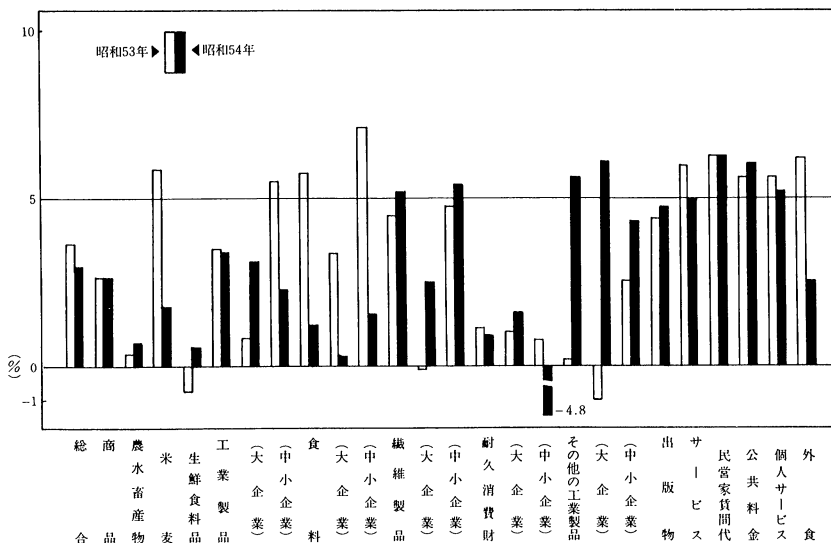
住居指数は、122.8となり、53年平均に比べ4.6%の上昇で53年の対前年上昇率4.7%よりわずかに低くなっている。これは、54年6月ごろからベニヤ板、角材などの大幅な値上がりにより設備修繕がかなり上昇したが、家具什器、水道料が前年の上昇率を下回る上昇にとどまったためである。

内訳をみると、設備修繕が9.5%、家賃が7.0%、水道料が2.9%、家具什器が0.6%、それぞれ上昇している。

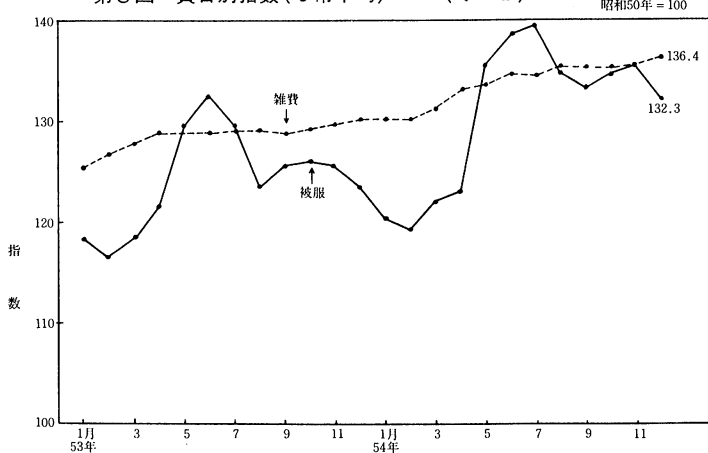
光熱指数は、116.4となり、53年平均に比べ4.6%の上昇で53年の対前年上昇率-2.0%より高くなっている。これは、53年には電気代及びガス代の円高差益還元による料金割引、灯油の値下がりなどにより前年より下落したのに対し、54年は灯油が大幅に値上がりしたほか、木炭、れん炭、プロパンガスなども値上がりしたためである。

内訳をみると灯油、プロパンガスなどの「その他の光熱」が11.1%と大幅に上昇したが、電気・ガス代は前年平均と

第6図 特殊分類指数の対前年上昇率(5市平均)



第5図 費目別指数(5市平均) (その2)



変らなかった。

被服指数は、131.0となり、53年平均に比べ5.4%の上昇で、53年の対前年上昇率4.2%より高くなっている。これは、中振袖、ワンピース、スーツ、ニットスーツ、ブラウス、スカートなどの婦人衣料の値上がり为主要な要因となって衣料が前年の上昇率を上回る上昇となったほか、指輪、履物などの値上がりにより、身の回り品も前年の上昇率を上回る上昇となったためである。

内訳をみると和服が5.9%、洋服が5.6%、シャツ・下着が5.3%、「他の衣料」が4.4%、それぞれ上昇し、これらを合わせた衣料が5.3%の上昇となったほか、身の回り品が5.7%上昇している。

雑費指数は、133.9となり、53年平均に比べ4.2%の上昇で53年の対前年上昇率4.5%より低くなっている。これは53年4月に授業料(公立高校、私立高校、国立大学)が大幅に値上げされたのに対し、54年には、その値上げ幅が縮小されたこと、また、53年には、入院費、診察料が大幅に引き上げられたのに対し、54年には、入院費のみの引き上げにとどまったことなどによるものである。

内訳をみると、教育が8.4%、自動車等関係費が7.2%、交通通信が5.6%、「その他の雑費」が5.1%、教養娯楽が3.6%、文房具、保健医療、理容衛生がともに1.2%、それぞれ上昇しているが、たばこは前年平均と変らなかった。

5. 寄与率

各費目の上昇が総合指数の上昇率3.2%に及ぼす影響を寄与率でみると、雑費が44.5%(前年38.6%)、被服が22.2%(前年14.1%)、住居が14.0%(前年11.5%)、食料が13.6%(前年38.0%)、光熱が5.7%(前年-2.2%)となっており、53年に比べると食料の寄与率が小さくなっている。これを中分類でみると、衣料が15.9%で最も大きく寄与し、次いで教養娯楽の13.7%、交通通信の9.8%、教育の8.9%、自動車等関係費の8.5%などが目立っている。

6. 特殊分類指数

特殊分類に組みかえた指数で54年の物価の上昇をみると、商品が2.7%、サービスが5.0%、それぞれ上昇している。53年に比べると、商品は前年と同率の上昇であったのに対し、サービスは、前年の上昇率より低くなっている。

次に商品の内訳をみると、出版物が4.8%で最も大きく上昇しており、次いで工業製品が3.3%、農水畜産物が0.7%

となっている。

サービスの内訳をみると、民営家賃間代が6.4%、次いで公共料金が6.0%、個人サービスが5.2%、外食が2.6%、それぞれ上昇している。

7. 市別の動き

市別の動きを対前年上昇率(総合)でみると下館市が4.0%(前年3.4%)で最も大きく、次いで水戸市及び古河市が3.3%(前年・水戸市3.7%、古河市4.1%)、日立市が3.1%(前年4.1%)、土浦市が2.6%(前年3.6%)となっている。

下館市を除く4市は53年の上昇率を下回っているが、これは光熱などの上昇があったものの、生鮮魚介、塩干魚介、乾物などを中心に食料の上昇率が前年の上昇率をかなり下回ったのが主因である。

これに対し、下館市は、生鮮魚介、乾物などが前年より高い水準を示し、食料全体としては、前年の上昇率に近い上昇となっていることと、光熱の大幅な上昇などにより総合の上昇率が53年の上昇率を上回っている。

第1表 総合指数

昭和50年=100

年月	市名	5市平均	水戸市	日立市	土浦市	古河市	下館市
指	昭和45年平均	57.9	57.3	58.8	57.7	57.4	57.7
	46	61.7	61.2	63.1	60.2	61.6	61.2
	47	64.4	63.4	65.5	64.4	64.0	64.3
	48	72.1	71.1	73.2	71.9	72.0	72.5
	49	90.3	89.5	91.0	89.3	90.7	92.0
	50	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	51	109.0	109.1	108.6	109.8	108.8	108.9
	52	118.4	118.1	118.1	120.8	116.7	118.1
	53	123.0	122.5	122.9	125.1	121.5	122.1
	54	126.9	126.6	126.7	128.3	122.5	127.0
数	昭和54年1月	123.2	123.0	123.4	123.9	122.4	122.4
	2	122.7	122.5	122.6	124.1	121.6	122.8
	3	124.1	123.7	123.8	126.2	122.6	124.2
	4	125.5	124.9	125.2	128.1	123.9	125.4
	5	127.3	126.4	127.6	129.8	124.7	127.2
	6	127.4	126.8	127.7	129.6	124.4	127.2
	7	128.2	128.1	128.2	129.8	125.9	127.9
	8	127.4	127.0	126.5	129.5	126.6	128.8
	9	127.6	126.9	127.2	129.6	126.5	129.2
	10	129.7	131.0	128.6	129.9	128.8	129.9
	11	129.5	129.6	129.8	129.5	128.5	128.6
	12	129.6	129.4	129.7	129.9	129.6	129.8
	対前年同月上昇率(%)	昭和54年1月	2.8	3.4	2.3	1.7	3.2
2		1.9	2.3	1.5	1.6	1.8	2.6
3		2.2	2.6	2.1	1.7	2.0	2.7
4		2.3	2.6	2.3	1.8	2.1	2.5
5		2.4	2.4	2.8	2.1	1.4	2.9
6		3.3	3.4	3.8	2.5	2.4	3.8
7		4.1	4.1	4.7	2.9	3.8	4.6
8		3.2	3.0	3.3	2.2	3.2	5.1
9		2.6	2.4	2.6	2.1	2.8	4.1
10		3.3	3.8	2.1	3.1	4.7	5.0
11		4.8	4.9	4.8	4.0	5.8	5.0
12		5.0	4.8	4.8	4.8	6.3	6.2
対前年率(%)	昭和51年平均	9.0	9.1	8.6	9.8	8.3	8.9
	52	8.6	8.2	8.7	10.0	7.8	8.4
	53	3.9	3.7	4.1	3.6	4.1	3.4
	54	3.2	3.3	3.1	2.6	3.3	4.0

(統計課・消費担当)